仴 秋の

うので、多くの若者が立候補し、 りました。 なく、人柄や能力で決めるとい出しました。その婿は家柄では出しました。 庄屋が一人娘の婿を探すと言いある時、その村の大金持ちの 最後に甲乙付けがたい二人が残 「聞かぬ観音さま」でした。 まは願い事をしても知らん顔の る「聞く観音さま」、西の観音さ まは願い事を何でも聞いて下さ

行きました。すると明くる朝、 の心に「あいつさえ死ねば俺が イバルの若者は死んでしまいまし の「聞く観音さま」にお願いに 婿だ」という思いがわいてきま した。その若者はその思いを東 この二人のうち、片方の若者 ゛ラ

くなった頃、これでは全員死んで

そうして村にほとんど人がいな

しまうと気づいた残った村人は、

親です。同じように「聞く観音さ ま」に頼んでわが子を殺した若者 怒ったのはわが子を殺された両 観音さま」に訊ねにいきました。 どうしたらいいかを西の「聞かぬ

西

の観音様は「人が思い通り

それに怒った親戚が…、と村中殺 手の親が腹を立て相手の親が死に を殺してしまいました。すると相 し合いになりました。 ますようにとお願いする、 、今度は

が祀られていました。東の観音さ

堂があり、

昔々、

ある東の村と西の村にお どちらにも観音さま

手を合わす意味

ど、お前たちは、自分の願いを聞 いてもらおうとせずに、仏さまの たちの願い事を聞かなかったけれ と恐ろしいことになる。 にしたいという欲望を叶えている 願い(本願)を聞くようにしな

親鸞さまは「弥陀五劫思惟のごこう ひとえ

く人生にしたいですね。 仏さまの願いを聞きつつ生きてゆ

の人生をだめにしている私、米 から、愚かな心で、自分や他人 しゃるのです。 ざめておくれと願われていらっ く気づいておくれ、迷いからめ い続けている私に、どうか早 仏さまは、はかり知れない昔

もって述べられています。 であった)」と痛みと喜びの心を のことではない、私ひとりのため 弥陀さまが、はかりり知れない 昔から思案し続けられた願い をよくよく考えてみると、他人 に親鸞一人がためなりけり(阿 願をよくよく案ずれば、

私たちも、お願いする人生から

次回 お寺の子ども会は、

私はお前



さい」と言われたそうだ。

14時~16時です。

11月13日 (日)

参加費 (全部込みで) 大人はお皿など。 小さい子は湯呑みの (鉛筆立て)

子ども 千円 大人壬二百

12 月 26 日 10時20分~15時 す。どうぞご予定下さい。 その次は 「報恩講ほとけの子の集い」 月 で